



自由地と自由貨幣による自然的経済秩序

シルビオ・ゲゼル著 相田慎一訳

ばる出版 2007

経済学部教授 相田 慎一

私がかつても長く付き合った学問的著作のひとつは、シルビオ・ゲゼルの主著『自由地と自由貨幣による自然的経済秩序』であるだろう。というのも、私はこの本を邦訳するためにほぼ10年以上の歳月をかけたからである。悪戦苦闘の連続だった。それでも私がなんとか邦訳書の出版にまでこぎつけることができたのは、次のような思いであった。これまでの社会主義思想は、平等・公正とともに自由を謳いながらも、強力な国家による所得の再分配を求めたために、「個人の自由」を抑圧する全体主義体制を作り上げてしまった。今や必要なのは、「個人の自由」や「個性」を無条件に擁護する社会主義思想である。このゲゼルの主著の中にその可能性があるのかもしれない。もしあるとすれば、一刻も早くこのゲゼルの主著を日本の読者に紹介しなければならない、と。

このゲゼルの主著を邦訳して分かったことは、

次のことだった。「個人の自由」や「個性」を保障する経済システムとは、だれでもが公平にかつ自由に参加できる市場経済である。だが、その市場経済は、地代や利子といった「不労所得」が特権的地位を占める現存の市場経済ではなく、地代や利子といった「不労所得」が廃絶された市場経済でなければならない。こうした市場経済を作るためには、土地の社会化によって地代を廃絶する「自由地改革」と時間とともに減価していく貨幣（利子のない貨幣）の導入といった「自由貨幣改革」という二つの経済改革が必要になる、と。このゲゼルの経済改革論から地域通貨という新たな思想が生まれ、それは経済のグローバル化のなかで地域を守ろうとする人々の貴重な実践的武器になっている。ぜひ大学4年間の間に読んでほしい。そしてそこから新たな思想と実践的武器を作り上げてほしい。